

地域安全マップづくり 指導マニュアル



岡山県マスコット「ももっち」

岡山県県民生活部くらし安全安心課

もくじ

1	地域安全マップとは？	1ページ
2	地域安全マップづくりのねらいとその効果	1ページ
3	地域安全マップづくり 学習全体の流れ	2ページ
4	事前準備	
①	日程調整	3ページ
②	グループリーダー(ボランティア等)の確保と依頼	3ページ
③	班編制(役割分担)	4ページ
④	準備物	5ページ
⑤	フィールドワークの経路設定	5ページ
5	学習の流れ	
①	事前学習	6ページ
②	フィールドワーク	11ページ
③	マップ作製	13ページ
④	発表会	16ページ
6	指導者用資料	17ページ

県の出前授業では、「聞き書きマップ」という手法を活用し、GPS受信機やデジタルカメラを持ってまち歩き(フィールドワーク)をし、防犯のための地域安全マップづくりを行っています。まち歩き後、専用のソフトが入ったパソコンにGPS受信機を繋ぐと、通った経路と写真を撮った場所が地図上に表示されます。そして、印刷した写真と地図を使い、簡単に地域安全マップづくりをすることができます。



☆地図作成の時間を短縮！
☆通学路安全点検に活用！
☆「犯罪が起こりやすい場所」
を集中して探せるよ！

くらし安全安心課マスコット「ひみつおに」



1 地域安全マップとは？

犯罪が起こりやすい場所等を地図にまとめたものです。犯罪者は、犯行の成功しそうな場所を選びます。

そうした場所は、「(だれもが) 入りやすい」「(だれからも) 見えにくい」という2つのキーワードで表すことができます。

そのような場所を洗い出したものが地域安全マップです。



2 地域安全マップづくりのねらいとその効果

地域の危険箇所を自分の目で確認し、地域住民へのインタビューを行うなど、地域安全マップ作製を通して、子どもは自ら危険を予測する能力(景色を読み解く力)、危険を回避する能力を身につけるとともに、地域との関わりを深めていくことができます。

「入りやすい」「見えにくい」というキーワードを子どもに意識させ、この「ものさし」を使いこなせるように指導することが大切です。

地域安全マップは、犯罪が起こりやすい場所を表示した地図であって、実際に犯罪が発生した場所を示した地図(犯罪発生マップ)や、不審者が出没した場所を示した地図(不審者マップ)ではありません。

また、大人が地域安全マップを作製し、それを子どもに配布するだけでは、子どもの危険予測・回避能力を高める効果は少ないと言えます。

地域安全マップづくりを体験することで、危険な場所を避けたり、注意力を向上させたりする必要性を強く感じるようになります。

子ども自身が自ら調査し、マップを作製し、発表するという活動によって危険予測能力・危機回避能力が高められます。

なお、地域安全マップづくりは、子ども自身の次のような効果も期待できます。




- コミュニケーション能力の向上
- 地域への愛着心の向上
- 非行防止能力の向上
- 大人の防犯意識の向上



3 地域安全マップづくり 全体の流れ

地域安全マップづくりには、主に4つのステップがあります。

地域安全マップづくりは、学校の規模や実態によって異なりますが、合計4単位時間～7単位時間みておくとよいでしょう。(1単位時間45分間)

内容	
事前準備	1 日程調整 (※出前授業打合せ) 2 グループリーダー (ボランティア) の確保と依頼 3 当日の役割分担の設定 4 用具の準備 5 ルートの設定 <div style="text-align: right; margin-top: 20px;">} 学校で準備</div>
出前授業	
安全マップづくり (4～7単位時間)	<div style="display: flex;"> <div style="flex: 1;"> <p>① 事前学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域安全マップづくりのポイントを理解する。 【ポイント】 「(だれもが) 入りやすい場所」 「(だれからも) 見えにくい場所」 </div> <div style="flex: 1; text-align: right;">  </div> </div> <hr/> <div style="display: flex;"> <div style="flex: 1;"> <p>② フィールドワーク</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実際に自分たちの住んでいる地域を歩く ・「入りやすい場所」「見えにくい場所」等を自分の目で探す。 ・地図上の危険箇所シールを貼ったり、ワークシートにその理由をメモしたりする。 </div> <div style="flex: 1; text-align: right;">  </div> </div> <hr/> <div style="display: flex;"> <div style="flex: 1;"> <p>③ マップ作製</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域安全マップの地図に、写真やメモを貼り付けマップを作製する。 ・フィールドワークで見つけた「入りやすい場所」「見えにくい場所」等を地図で表現する。 </div> <div style="flex: 1; text-align: right;">  </div> </div> <hr/> <div style="display: flex;"> <div style="flex: 1;"> <p>④ 発表会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作製したマップを使って、「入りやすい」「見えにくい」という言葉キーワードにして表現する。 ・地図にまとめた内容やマップづくりの感想等を発表する。(地域の方や下級生に発表してもよい。) </div> <div style="flex: 1; text-align: right;">  </div> </div>

4 事前準備

地域安全マップの学習実施までに以下のような準備をする必要があります。実施前には、用具の準備の他、フィールドワークの経路や役割分担等を決めておきましょう。



① 日程調整

学年・児童数	学年 人	グループ数	出前授業
(1) 事前学習	日時： 月 日 () : ~ :		
	場所：		
(2) フィールドワーク	日時：		
	授業終了場所：		
(3) マップ作製	日時： 月 日 () : ~ :		
	場所：		
(4) 発表会	日時： 月 日 () : ~ :		
	場所：		

② グループリーダー（ボランティア等）の確保と依頼

指導者は、事前指導が始まる前に、当日、グループリーダー(引率者)として参加してもらう地域の方々(ボランティア等)に、地域安全マップづくりのねらいの説明をしましょう。子どもが主役であることを伝えておきましょう。(P.11「留意点」も参照)

もし、打合せの時間がとれない場合は、当日、子どもたちへの事前指導の際、子どもと一緒に説明を聞いてもらい、ねらいと留意点についてお知らせしましょう。

【ねらい】
子どもたちが実際に歩いて、犯罪が起こりやすい場所を <u>自分の目で見分ける力(景色を読み解く力)</u> を育てることが目的です。安全マップをつくることが目的ではありません。 <u>安全マップをつくる過程で、子どもたちが自分で考えることが大切です。</u>
【役割】
・児童の安全確保 ・児童への助言
【気をつけること】
<ul style="list-style-type: none"> ・交通安全には十分気をつけ、児童の安全確保に努めてください。 ・ルートの確認をしながら、歩いてください。 ・メモの番号と地図上に貼るシール番号が一致しているかどうかその都度確認してください。 ・できるだけ児童が主体的に活動できるよう、ヒントに留めるなど助言は最低限にしてください。

③ 班編制（役割分担）

フィールドワーク、マップ作製時のグループ分けを事前に行うと、活動の効率が上がります。

グループは、5、6人が適切です。1グループの人数が増えると、活動時に手持ち無沙汰になる子どもがでてきます。主体的に取り組めるように、1人1役にします。

係	役割	係	役割
班長 	全体のまとめ役 ※ インタビュー係	地図 	フィールドワークの 経路を確認 ※ 班長の兼業可
副班長 	班長や他の係の手助け ※ 交通安全の係など	メモ 	フィールドワーク時、 地図に危険な場所や安 全な場所など記録
時計 	時間の管理 ※ 他の係と兼業可	カメラ 	フィールドワーク時、 発見した危険な場所や 安全な場所を撮影

※ 学校の状況に合わせ、人数は自由に設定可

【役割分担表】

班	ルート名	班長	副班長	地図	カメラ	メモ	時計	グループ リーダー
1班								
2班								
3班								
4班								
5班								
6班								
7班								

④ 準備物

地域安全マップづくりには、以下の表にあるものが必要となります。

フィールドワークの実施にあたり、GPSやカメラを県から貸し出します。



出前授業

(1) 事前学習	<input type="checkbox"/> パソコン <input type="checkbox"/> スピーカー <input type="checkbox"/> スクリーン(テレビ) <input type="checkbox"/> プロジェクター <input type="checkbox"/> ケーブル (HDMI)
(2) フィールドワーク	<input type="checkbox"/> GPS <input type="checkbox"/> デジカメ <input type="checkbox"/> 番号シール <input type="checkbox"/> 持ち歩き用地図 <input type="checkbox"/> 筆記用具 (バインダー含む) <input type="checkbox"/> 時計 <input type="checkbox"/> メモ係記入用紙 <input type="checkbox"/> 帽子 <input type="checkbox"/> 水筒 <input type="checkbox"/> タオル <input type="checkbox"/> 救急セット ※ 赤字：くらし安全安心課準備
(3) マップ作製	<input type="checkbox"/> 模造紙 <input type="checkbox"/> 折り紙 <input type="checkbox"/> 付箋(2～3色) <input type="checkbox"/> 写真 <input type="checkbox"/> はさみ <input type="checkbox"/> マジック <input type="checkbox"/> のり <input type="checkbox"/> パソコン・スクリーン
(4) 発表会	<input type="checkbox"/> 作製した地図 <input type="checkbox"/> 指示棒 等

⑤ フィールドワークの経路設定

班での役割分担が決まったら、班ごとのフィールドワークのルートを決める必要があります。

フィールドワークは60分から90分程度で帰ることができる範囲が適切です。

(学区全体、又は通学路全てを歩く必要はありません。)

子どもたちが普段利用している公園、商店街、通学路等を選定することで、子どもたちの理解が一層深まります。

事前に、白地図に蛍光マーカー等でルートをかいておくと、子どもたちが迷わず行動できるよ。

地図係とグループリーダーにそれぞれ一枚ずつ地図を渡しておくといいね。



5 学習の流れ 出前授業

① 事前学習（30分～40分）

ねらい

犯罪に遭わないようにするために、危険な場所と安全な場所がわかる。
フィールドワークの際の役割と手順がわかる。

手順

- 1 犯罪から自分の身を守るためには、不審者などの「人」に注目するのではなく、**犯罪が起こりやすい「場所」**に注目することを説明する。
- 2 **犯罪が起こりやすい「場所」**とは
 - ・「（だれもが）**入りやすい場所**」
 - ・「（だれからも）**見えにくい場所**」であることを確認する。
- 3 フィールドワークの手順、それぞれの役割と注意事項について確認する。



留意点

- ・ 場所が特定されないようにすることやプライバシーに配慮する必要があります。
- ・ 子どもたちの主体的な活動になるよう工夫することが重要です。
- ・ 指導する学年の発達段階を十分に考慮して指導することが大切です。

（参考となる資料）

「**作ろう!地域安全マップ**」（教材ビデオ 20分）

企画制作／全国防犯協会連合会、社会安全研究財団

監 修／警察庁、立正大学教授 小宮信夫

※県内全小学校に配布済（平成19年3月）

「**増補版 犯罪に強いまちづくりの理論と実践**」イマジン出版

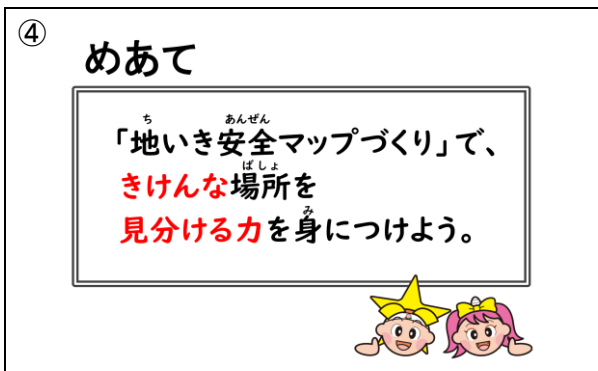
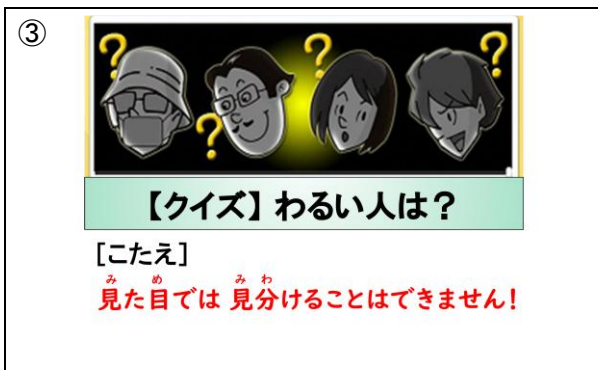
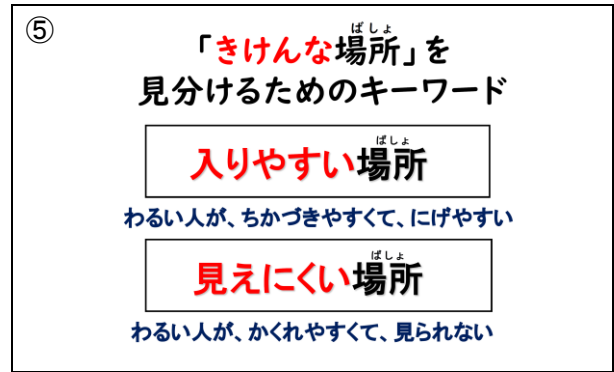
小宮信夫 編著

「**子どもは『この場所』で襲われる**」小学館

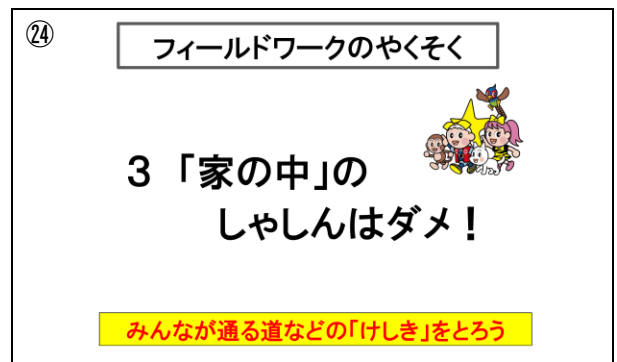
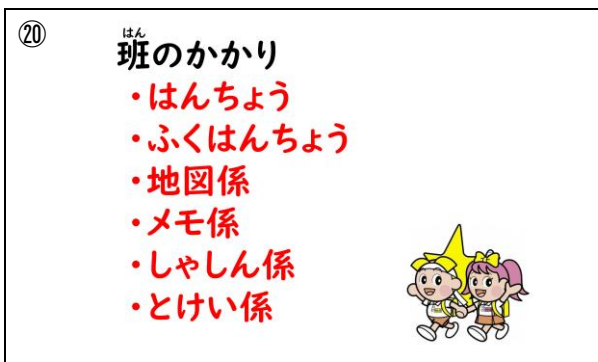
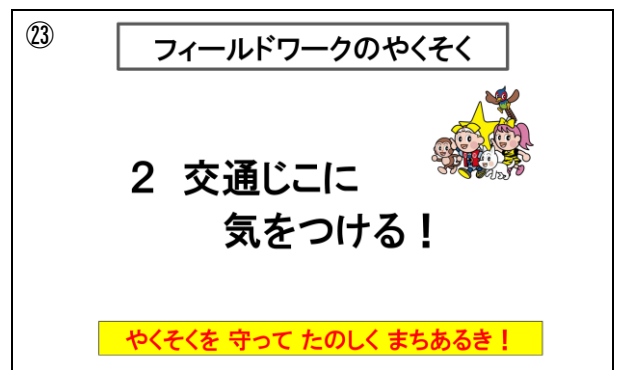
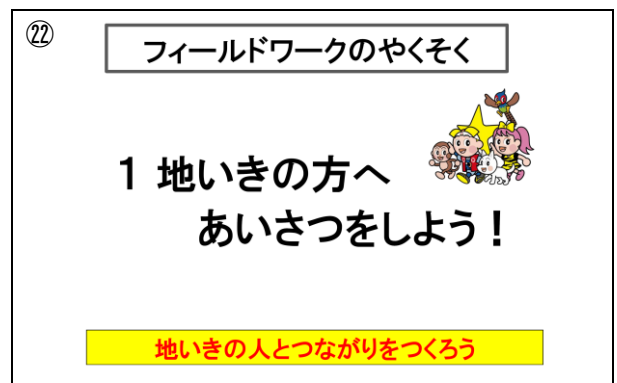
小宮信夫 著



事前学習用パワーポイント







②⑤ フィールドワークのやくそく

4 「自分たち」だけで
やってみる！

話し合うこと・考えることが大切

②⑦ フィールドワークのやくそく

6 時間どおりに
帰ってくる！

おわりの時間を考えてあるこう！

②⑥ フィールドワークのやくそく

5 しゃしん・地図・メモ
大人に かくにん！

こまったときはそうだんしよう

②⑧ フィールドワークに出発！

持ちものを
かくにんしよう

トイレに行ってから
集合してね！

聞き書きマップの地図と写真の送付について

【 地図 】

模造紙

地図 A 4	地図 A 4
地図 A 4	地図 A 4

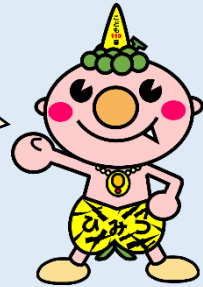
【 写真 】



できた地図と写真を送るよ！

地図は模造紙1枚用に、A2サイズ（A4（2×2））で拡大印刷したものを送ります。それを模造紙に貼り付けてください。

また、写真は、番号がついた写真を送りますので、地図上の番号と一致させて貼り付けてください。



②フィールドワーク（60分～90分） 出前授業

ねらい

犯罪が起こりやすい場所のキーワード「**入りやすい場所**」「**見えにくい場所**」をいつも意識しながら、安全な場所・危険な場所を見つける。

手順

- 1 班ごとに、事前に決めたルートフィールドワークに出かける。
- 2 「**入りやすい場所**」や「**見えにくい場所**」を見つけたら、その場所の写真を撮る。（1箇所に1枚）地図係は、コース地図に番号シールを貼り、メモ係は、その場所がどういう理由で、「入りやすい・入りにくい」「見えにくい・見えやすい」と考えたかをメモ用紙に記入する。
- 3 地域の方に遭ったらインタビューし、内容をメモするとともに、その危険箇所を調べる。

【インタビュー（例）】

こんにちは。〇〇小学校で、地域安全マップを作っています。
このあたりで、犯罪に遭うかもしれない、気をつけたほうがいい場所がありますか？

※「このあたりで、危険な場所はありませんか？」と質問すると、交通安全についての答えが返ってくる人が多いので、(例)のような聞き方を勧めます。

大きな声で
あいさつをしようね



岡山県「ばっちり！モグモグ」生活リズム向上マスコットキャラクター

留意点

- ・グループリーダー(ボランティア等)は、地図上のシールと写真、メモがそれぞれ対応しているかどうか毎回確認しながら、フィールドワークをすること。
- ・場所によっては、「**入りやすく、見えやすい場所**」や「**入りにくく、見えにくい場所**」等、一方が該当する場所もある。その場合、**結論（危険か安全か）はどちらでも構わない。（重要なのは、子どもがどういう理由で考えたか）**
- ・**子どもが発見することが重要。**大人が教えただけでは、子どもの力が育たない。ただし、大事なポイントや子どもが見過ごしそうな場合は、ヒントを与えるなどの工夫が考えられる。
- ・班で協力してフィールドワークをすることが大切である。写真を撮る場所を決めたり、メモを記入したりする時は、班全員で相談しながらするように指導すること。
- ・インタビューの目的は情報収集だが、地域には子どもたちを見守っている大人がたくさんいることを子どもたちに気づかせるもう一つの目的がある。

フィールドワーク用メモ () 班

番号	場 所	理 由 「入りやすい・見えにくい」のポイントで	区 分
例 1	学校前の地下道	トンネルになっていて、周りから見えにくいので危険。	きけん
			安 全
例 2	〇〇商店	子ども110番の家	きけん
		何かあったら助けをもとめてにげこめる。	安 全
①			きけん
			安 全
②			きけん
			安 全
③			きけん
			安 全
④			きけん
			安 全
⑤			きけん
			安 全
⑥			きけん
			安 全
⑦			きけん
			安 全
⑧			きけん
			安 全
⑨			きけん
			安 全
⑩			きけん
			安 全
⑪			きけん
			安 全
⑫			きけん
			安 全

※このメモを参考(さんこう)にしなが、地図を作る時に写真に説明(せつめい)を付けます。

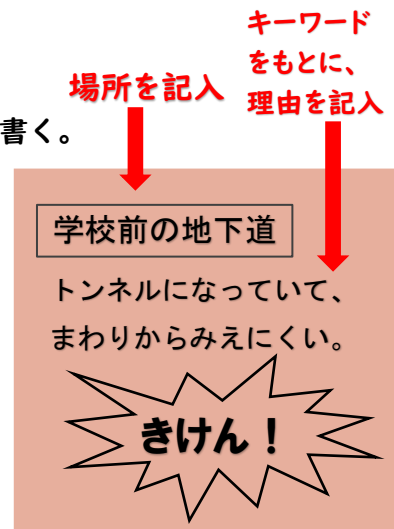
③マップ作製（４５分～９０分）

ねらい

フィールドワークで集めた情報や知識の理解を共有し、マップにまとめる。

手順

- 1 「ねらい」と「作製手順」を説明する。
- 2 地図にする写真を選び、それぞれ担当する写真を決める。
- 3 付箋紙に、危険な場所、安全な場所を色分けしてコメントを書く。
 (例：危険な場所・・・赤、安全な場所・・・青)
 ・「どうして、入りやすい場所なのか、見えにくい場所なのか」を自分の言葉でわかるように書く。
 ・表札やナンバープレート等の個人情報が写っている場合、切り取ったり、塗りつぶしたりする。
- 4 模造紙にレイアウトし、写真をのりで貼り、付箋を写真に貼っていく。
- 5 タイトルを作る。(折り紙等で飾る)

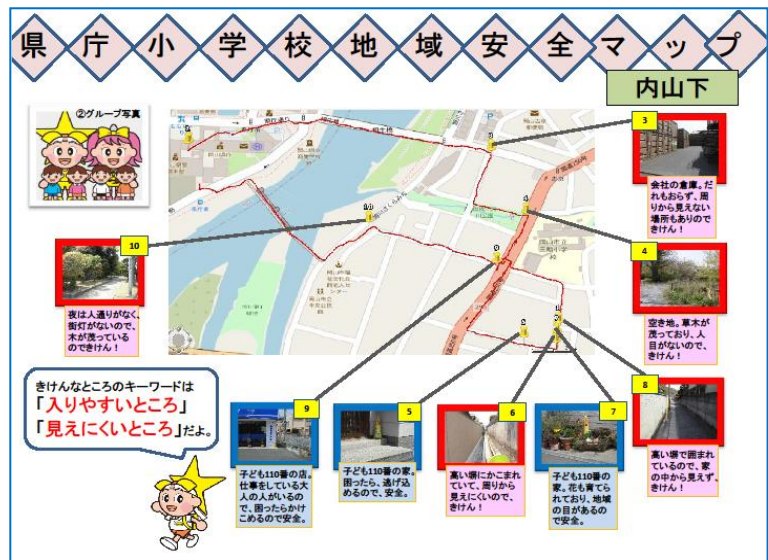


留意点

- ・写真は撮ったもの全てを使う必要はない。(多くて10枚程度)
- ・作業が早くできた子どもは、折り紙や画用紙を使って飾りを作るとよい。

【完成例】

イラストや飾りなどを付けるとさらにマップづくりが楽しくなるね。



マップ作製用パワーポイント

①

**地いき安全マップ
をつくろう**



⑤

つくる流れ

①写真をえらぼう

班の写真が多かったら、どの写真を使うか決めましょう。

多くて1班で10枚ぐらいかな。



②

復習

はんざいがおこりやすい場所のポイント

キーワード

入りやすい場所

見えにくい場所


⑥

つくる流れ

②写真のたんとうを決めよう

だれがどの写真をたんとうするのかみんなでそうだんして決めましょう。

たんとうした人が、その写真の説明(場所や理由)を書こう。




③

めあて

友達と協力して、オリジナル地いき安全マップをつくろう!

きけんな場所・安全な場所の理由がよく分かるマップにするといいね!



⑦

つくる流れ

③ふせん紙に場所の名前と理由を書こう

キーワード

入りやすい場所


見えにくい場所



④

つくる流れ

①写真をえらぼう。
②写真のたんとうを決めよう。
③ふせん紙に理由を書こう。
④もぞう紙にレイアウトしてみよう。
⑤のりではろう。



⑧

③ふせん紙に場所の名前と理由を書こう

説明のポイント


場所の名前
◎学校のうらがわの...
◎お店のとなりの...
◎ふみきりの近くの...

学校前の歩道ガードレールがないので車が**入りやすい**。**きけん**

理由には**キーワード**を入れる。

きけんか安全かを書く。

だれが見ても分かりやすい地図がいいね。



⑨

③ ふせん紙に場所の名前と理由を書こう

写真

学校前の歩道
ガードレールがないので車が入りやすい。まげん

理由(例)

- ・さくやチェーンがないので・・・
- ・屋間でも人が少ないので、・・・
- ・かくれるところがあるので、・・・
- ・へいが高いので、・・・
- ・落書きがあるので、・・・

書いたふせん紙は、写真のはしにはりましょう。

⑩

④ レイアウトしてみよう

(3) 地図のまわりに写真をおく。

○ 地図のポイントの近くに写真をおきましょう。

上手にならべることができるかな。

⑪

つくる流れ

④ レイアウトしてみよう

⑫

⑤ のりではろう

○ 地図、写真、ふせんをのりではろう！

きれいに貼れるかな？

⑬

④ レイアウトしてみよう

(1) 地図の写真をもぞう紙の真ん中の方へおく。

真ん中より
ちょっと下かな。
写真は貼る場所を
考えてね。

⑭

⑥ 線を引こう

○ じょうぎをつかってポイントと写真を線でむすびましょう！

じょうぎを使った方が
きれいにできるよ。

⑮

④ レイアウトしてみよう

(2) タイトルを書く。

タイトルはいいいに書いてね。

地区名
など

⑯

発表の準備

はやくできたら、
発表の練習をしたり、
かざりつけをしたり
しよう。

大切なこと

自分のたんとうを発表できるように
しましょう。

自分のことばで発表しましょう。

6 指導者用資料

① 「入りやすい場所」と「見えにくい場所」の例

指導者は、「犯罪が起りやすい場所」はどんな場所かしっかり理解することが必要です。「入りやすい場所」と「見えにくい場所」の例は以下のような場所です。

地下通路

- 誰でも通ることができるので、入りやすい場所です。
- 出入口まで距離があり、大変見えにくい場所になっています。
- 犯罪者は容易に近づくことができ、犯行は見られにくく、また、犯行後も何食わぬ顔で逃げることができます。



山に入る道

- 大通りから簡単に入ることができるのでとても入りやすい場所です。
- 山道に入ってしまうと木々のためにまったく見えなくなります。



ビル等の間の路地や建物裏のスペース

- 自由に入出入りできるので、入りやすい場所です。
- 両側ともに高いブロック塀で見えにくい場所です。



駐車場

- 出入口が管理されておらず、外から誰でも入りやすく、奥に行くと見えにくい場所になっています。
- 防犯カメラの設置や設置してあることを看板で表示するなど、犯罪の未然防止策があるかどうかを確かめてみる事が大切です。



公園

- 周囲をブロックとフェンスで囲まれていて入りにくいですが、木が生い茂っており、中が見えにくい場所と言えます。
- 犯罪者が身を隠す場所もあり、中が見えにくいので、犯罪があったとしても見つからない可能性もあります。



住宅街の路地

- 大通りから簡単に出入りできるので、入りやすい場所です。
- 住宅の高い生け垣やブロック塀が続き、住宅の中からの自然な視線は感じられず、見えにくい場所だと言えます。



土手と家の間の路地

- 大通りから簡単に出入りできるので、入りやすい場所です。
- 生垣で、家の中から見られることがなく、見えにくい場所だと言えます。
- 犯罪者は何食わぬ顔で、近づき、逃げるができます。



高架道路や階段の下のスペース

- 自由に入出入りできるので、入りやすい場所です。
- 柱や階段の陰で、待ち伏せができ、犯行も見られることがありません。
- 柱には落書きが放置されたままで、周囲にはゴミが散乱しており、地域の関心がないことが感じられて、心理的に見えにくい場所だと言えます。



放置自転車

- 公園脇のスペースに自転車が放置してあり、無関心のサインと考えられます。
- 心理的に見えにくい場所と言えます。



視線の届かない場所

- 車で自由に往来できるので、入りやすい場所です。
- 歩車道が分離されていない上にガードレールもないので、車に連れ込まれやすいです。
- 視界は開けていますが、民家が遠く視線が届きにくいので、見えにくい場所になります。



② 「入りにくい場所」と「見えやすい場所」の例

また、指導者は、「犯罪が起こりにくい場所」はどんな場所かしっかり理解することも必要です。「入りにくい場所」と「見えやすい場所」の例は以下のような場所です。

公園①

- 周囲をフェンスに囲まれ、植木も中が見えるように手入れされ、見えやすい公園です。また、周囲に民家があり、その窓から自然な視線が注がれるような意識が生まれます。
- 幼児が遊具で遊ぶスペースとその他のスペースが視覚で分かるように区別されており、犯罪者が遊具で遊んでいる幼児に心理的に近づきにくくなっています。



公園②

- 周囲に民家があり、その窓から自然な視線が注がれるような意識が生まれます。
- 幼児の遊ぶ遊具のあるスペースに隣接して、小中学生や大人等がボール遊びをする広場があり、遊具で遊んでいる幼児へ広場で遊ぶ小中学生や大人から自然な視線が注がれるように工夫されています。



マンションの出入口

- 門は施錠され、フェンスで囲まれているので入りにくい場所です。
- 周囲から見えやすいフェンスになっています。
- 監視カメラがあり、侵入者を見張っているため、見えやすく、入りにくい場所となっています。



監視カメラのある駐車場

- 周囲をフェンスに囲まれ、入り口に監視カメラが設置されているため、入りにくく、見えやすい場所と言えます。



管理の行き届いたゴミステーション

- 施錠され、中も整理整頓され清潔で、地域の人々の管理が行き届いています。
- 反対にゴミが散乱していたり、施錠等の管理が不徹底であったりすると、地域の関心がない場所、つまり、「見えにくい場所」となります。



駐車場

- フェンスで囲まれているので、中が見渡せません。入り口の管理もできており、入りにくい場所になっています。



手入れの行き届いた田畑

- 畑への立入りができないように、柵が設けられています。
- 手入れが行き届いており、作業をしている人がいることが感じられます。
- 作業小屋には施錠してあり、入りにくい場所となっています。
- ビニールハウスなどは管理が行き届いていないと、見えにくい場所になることがあります。



地域の掲示板

- 掲示物の張り方が整っており、お知らせの内容、日付も更新されているので、地域の人々の関心は高いと言え、人の目が注がれていることがうかがえます。
- 掲示物が破れていたり、古いものがそのままになっていたりしていると地域の関心が低いと言えます。



花の手入れ

(ガーデニング)

- 家の前のプランターの草花は手入れが行き届いており、住人の道路(通行人)への関心が高いと言えます。
- 犯罪者に「誰かが水やりに来るかもしれない。」という感覚を与え、心理的に入りにくく、見えやすい場所と言えます。



安全は 地域のきずなと
あなたの意識



③ 誤った方法で作成された効果の弱い地図

○ 不審者マップ



「変な人が出た」「あやしい人がウロウロしていた」などと、不審者が出没した場所を表示したマップを作製することは効果的でない上に、有害でさえあります。

不審者かどうかの判断が主観的なものであり、特定の人などを不審者扱いしてしまう差別的な地図になるおそれがあります。

子どもに、単純に「不審者に注意しましょう」と指導することは、「進んであいさつをしましょう」、「困っている人がいたら助けてあげましょう」などと指導していることと矛盾してしまい、子どもを混乱させることとなります。



「犯罪が起こりやすい場所では注意しよう」

○ 犯罪発生マップ

犯罪が発生した場所を単純にそのまま地図に書き込むだけでは、危険な場所を見極める能力は育ちません。

さらに、犯罪発生場所を探す作業を行っている時、被害体験を聞き出すことにつながり、心の傷（トラウマ）を深めてしまうおそれがあります。

被害に遭った子どもの心のケアには十分な配慮が必要です。

○ 不安に感じている場所を表示した地図



日ごろ不安に感じている場所では、注意しているはずなので、その場所を単純に地図に落とすだけでは、被害防止のための意識と能力の向上は期待できません。

監修 小宮信夫（立正大学教授）

（参考資料）

- ・「地域安全マップ作製マニュアル」 東京法令出版
立正大学文学部社会学科 小宮信夫 教授（岡山県犯罪のない安全・安心まちづくり検討委員会 顧問）
- ・広島県 子どもの犯罪被害防止プロジェクトチーム 「地域安全マップ」の作製方法
- ・東京都 大東京防犯ネットワーク 東京都安全・安心まちづくりアカデミー「地域安全マップをつくろう！」